

大学院受験経験共有

亜細亜友之会外語学院

大学院進学 A クラス：姚嘉莉

私は 2022 年 7 月生の姚嘉莉です。大学卒業後、亜細亜友之会外語学院に入学し、大学院の試験の準備をしました。最終的に東京藝術大学の文化財保存科学の美術工芸材料学に合格しました。

私の受験は順風満帆ではありませんでした。学部の専攻は文化財保護と修復で、分野は中国画と古籍修復でした。しかし、現代美術に興味を持っていたため、最初は日本でキュレーションを学ぶ準備をしていました。志望先は東京藝術大学の長谷川教授でしたが、残念ながら私が日本に来た年に教授は退任してしまいました。その後、美術史を選び、研究テーマを探し始めました。非常に残念なことに、日本では中国とは異なり、学芸員は大学で教職を兼任することができません。しかし、近代美術史の研究を行っている教授はほとんどが美術館や博物館で働いているため、私の選択肢となる教授は筑波大学の林先生のみでした。しかし、美術史の研究は言語の要求が非常に高いため、日本語の副専攻を取得してきたものの、実際にこの地に足を踏み入れてみると、会話と作文は本当に初歩的な状態でした。また、私は美術生だったので、総合的な歴史の学習や視点の構築はゼロから始める必要がありました。そのため、準備期間中にかなりの葛藤があり、出願書類の準備も最後に大澤先生と岩崎先生の全力のサポートのおかげで、何とか出願に間に合いました。最終結果は期待通りではありませんでした。

林先生は面接のとき私に尋ねました。「あなたは豊富な文化財保存の経験を持っていますが、美術史の学習にどのように役立つと思いますか？」私はこの質問にうまく答えることができませんでした。試験が終わった後も、ずっとこの質問を考え続けていました。これが私が現在の専攻を選ぶきっかけとなりました。

ここで皆さんと共有したいのは、まずは失敗の泥沼にはまらないようにすることです。私は短い期間中専攻を三回変えましたが、最終的には自分の本専攻に関連する分野に戻りました。しかし、以前に学んだことや努力が無駄だったとは思いません。自分がした努力はいつか報われると信じています。

次に、教授との面談の機会をうまく活用することです。自己 PR を最大限に行ってください。筑波大学の試験の準備をする際、私は事前に連絡をしなかったというミスを犯し、大学院の出願期限に間に合いませんでした。一方、東京藝術大学の受験準備では、私の研究科が事前に面談の機会を提供してくれたため、研究室に行き教授と先輩に相談することができました。また、実験室の設備などの見学もできました。事前に連絡が取れる場合は、教授と事前に連絡を取ることがベストです。

最後は良い心の状態を保つために、適度なリラックスも必要です。日本という異国で一人暮らしをする中で、進学のプレッシャーもあり、落ち込む気持ちを抱くことは珍しくありません。私が選んだストレス解消方法は、山登りです。自然の中に身を置くと、自分の悩みが些細なものであることに気付きます。もちろん、人それぞれ自分に合ったストレス解消方法がありますが、私が言いたいのは、感情の発散はとても大切だということです。

東京藝術大学大学院に合格できたことは私にとって予想外のことです。ご指導、ご協力をいただきました亜細亜友之会外語学院の先生方、同級生の皆様には心より感謝申し上げます。

